

お作池と一宮神社



土居町津根の八日市にお作池がある。1714年、領内見回り中の西条藩主松平頼致公（よりよし）は、池に居合わせたお作さんに水を要求し、その時の水を差し上げたお作さんのしぐさ、行儀、器量をお気にめされた。そこで、頼致公は、お作さんを側室として西条藩に呼び、お作さんは、永隆院と名乗るようになった。

その後、紀州吉宗公が8代将軍として江戸へ登ったために、西条藩主頼致公が徳川宗直（むねなお）と改名し、6代目紀州藩主となった。そのため、お作も側室として宗直について紀州に上り、7代藩主となる徳川宗將（むねのぶ）公を産み、徳川御三家紀州藩主の母親として崇められたという。



お作さんは、紀州へ登ってからも八日市の一宮神社を信仰し、様々なものを寄進したという。今も拝殿裏、神殿の脇に葵のご紋の入った石灯籠が一基ある。灯籠の前面に「永代常夜灯」、左面に「紀井太守従三位前中納言源宗將卿実母 永隆院殿」、右面に「天明元丑年六月」と刻まれている。また、境内には「永隆院殿生誕之地」の碑も建てられている。

なお、永隆院の死後、紀州藩から両親の菩提寺であった大福寺（土居町北野）へ贈られた文書や念仏を始めとして永隆院が愛用していたものなど24点は四国中央市の有形文化財に指定され、暁雨館に収められている。